

7月29日(月)

問 い か け て み る

聖書朗読 ヨハネ 5 : 1～6

そこで答えて言われた。「わたしも一言尋ねますから、それに答えなさい。」

ルカ 20 : 3

主イエスとまわりにいた人々とのやり取りでは、しばしば次のようなパターンが見受けられます。すなわち、人々が主に質問をするのですが、主はその質問に直ちにお答えにはならず、逆にイエス様からの質問を投げかけられる、というパターンです。このようなイエス様の応答に、人々はややイライラしたかもしれません。

往々にして、私たちは問題や課題の解決策を得ることばかりに集中してしまいがちです。しかし「なぜその解決策が必要なのか」ということを問うてみることも大切なのではないのでしょうか。

私が子供の頃、N. E. ローズという説教者は次のようによく言っていたものです。(多くの場合)「ある問題の解決策を知る」とことは、それほど難しくありません。しかし、「その問題がなぜ解決されるべきなのか」という問題の本質を探る問いを立てることは中々難しい、とローズさんは言っていました。そしてローズさんは、イエス様が人々に投げかけられた「問い」の重要性に注目する説教をしばしばしていました。

ベテスダの池近くに居た病人がイエス様から投げかけられた問いについて、少し考えてみましょう。この人は38年もの間病気で苦しんでおり、これまで多くの人々がこの病人に「(治るために) すべきこと」を教えていたと思われれます。しかし、イエス様は「〇〇せよ」とおっしゃる前にまず、「良くなりたいか」との問いかけをこの病人になさいました。そのような問いかけをされて、この病人はややびっくりしたかもしれません。しかし、イエス様がなさった問いによって、この病人は真に必要なこと(よくなること。究極的には魂の救い)を確認できたのです。そして、この病人は池に入ることをせず(つまり、彼が当初解決策だと考えていたことを実践することなく)癒され、真に必要な「癒される」という体験をしました。私たち人間は、「何をすればよいのか」と言うことばかり考えてしまいがちですが、「何のためにそれをするのか」という適切な問いをまず自分自身に問いかけてみる必要があるのではないのでしょうか。

讃美歌 II 編 83

祈り 親愛なる神様、私たちがあなたに耳を傾け、あなたが私たちに問うておられる問いに耳を澄ますことが出来ますようお導きください。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

デイヴィッド・ラングフォード
テキサス州 ラボック

今日 の 力

2019年7月29日～8月4日

翻訳 伊藤若菜

編集 相川忠義

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

7月30日(火)

霊的な食物

聖書朗読 ヨハネ 6：52～59

イエスは答えて言われた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる』と書いてある。」
マタイ 4：4

「何を食べるかが、あなたを作るのです」といった標語のもと、栄養士、学校の教師、親たちは、栄養摂取の大切さについてしばしば指導しています。同じような標語は、イギリスのあるテレビ番組のタイトルにさえなりました。ところで、聖書は「何を食べるかが、あなたを作る」ということに、霊的な意味も与えています。

ヨハネの福音書6章で、イエス様は、ご自身が「いのちのパン」であり、このパンを食べる者は永遠に生きることを教えられました。しかし、その教えを受けた際、多くの人々はその意味が理解できませんでした。その時イエス様は、最後の晩餐における「新しい契約」をあらかじめ意識して、「いのちのパン」について教えられたのですが、その時点では「いのちのパン」の意味を理解できる人はいませんでした。

往々にして私たちは、物質的なものと霊的なものを必要以上に分けて考えがちではないでしょうか。しかし、神であられる主イエスが肉（人間のかたち）をとってこの世界に來られたという事実を考える時、物質的なもの（目に見えるもの）の内に現されている霊的意味や重要性があることに気付かされます。主イエスは、たくさんの譬えを語っておられますが、それらの譬え一つ一つにも、霊的な意味があります。そして、目に見える物質的なものや出来事の表面だけでなく、目に見える世界に現されている霊的意味を知ることの大切さを教えておられます。私たちも、目に見えることだけでなく、見えないけれども働かされている神の御手にこそ心を留めたいものです。

讃美歌 270

祈り 親愛なる神様、いつも私たちと共にいて下さりありがとうございます。私たちがこれからも、あなたの御言葉によってお導きください。聖餐に与る毎に、あなたとの交わりが、多くの主にある兄弟姉妹との交わり共に、祝福されますように。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジュリア・デントン
バージニア州ヨークタウン

7月31日(水)

神様に信仰を置く

聖書朗読 ヨハネ 7：1～9

兄弟たちもイエスを信じていなかったのである。

ヨハネ 7：5

ある年配の男性から、次のような体験談を聞いたことがあります。この男性がバプテスマされクリスチャンとなった日、彼はとても嬉しくて、家族に早くこの出来事を伝えたく思い、走って家に帰りました。しかし、悲しいことに、彼のバプテスマを知った家の人たちは（キリスト教信仰を受け入れていなかった）、この男性と家族の縁を切ってしまったというのです。

もしかしたら、あなたも類似したような出来事を聞いたことがあるかもしれません。上記の男性のように、クリスチャンの中には、大変な犠牲を払ってクリスチャンとして歩んでいる人達があります。あなたご自身も、イエス様に従うために、何かを犠牲にしたことがあるのではないのでしょうか。もしそうであれば、その時の体験を他のクリスチャンと分かち合ってみることをお勧めします。そうすれば、お互いにとって励ましとなることでしょう。電話で話してもよいでしょうし、ご自宅にお招きしてお話しするのも良いでしょう。こうして互いに励まし合うことを通して、私たちは神の家族としての絆を深め、神様への信仰をも深めることが出来ます。

「私たちと主イエスとの繋がり」というのは、地上的な人間関係よりもはるかに強い繋がりです（参照、ローマ8:38-39）。そして、クリスチャンは皆、同じ主に繋がっている兄弟姉妹です。そして、私たち主にある兄弟姉妹は、互いに励まし合い、支え合って歩んでいくことが出来るのです。

讃美歌 403

祈り 神様、一人子であるイエス様を私たちに与えて下さり、ありがとうございます。私たちクリスチャンが、互いに心から愛し合い、支え合い、あなたと共に歩めるようお導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジーナ・N・カー克蘭ドーホーガン
サウスカロライナ州コロンビア

8月1日 (木)

準備万端

聖書朗読 ヨハネ 7：1～9

そこでイエスは彼らに言われた。「わたしの時はまだ来ていません。しかし、あなたがたの時はいつでも来ているのです。」
ヨハネ 7：6

準備万端にするのは難しいことです。私には十代の娘が二人いますが、家族でどこかに出かける際、娘たちは準備にとても時間が掛かります。私の娘たちにとって、身なりを整え、出かける準備をすることは大変なことであり、このことが原因で時々親子げんかさえ起こります。一方、息子は全く別です。彼の髪の毛は短いので、髪を梳かすのにもたった1分あれば十分です。服にこだわりがなく、マッチしてなくても気にしないので、服を選ぶのにも時間がかかりません。ですから、彼はいつも準備万端で、声をかければすぐに出かけることが出来ます。

ヨハネ7章でイエス様は、私たちに対し「いつ御国が来ても良いように、準備万端でいなさい」と教えておられます。クリスチャンは、この地上においては旅人のようであり、他国を訪問している外国人のようであると、聖書は教えています。そして神様が定めた時が来たとき、真の家である御国へ行くことが出来るのです。あなたは、この大いなる恵みの約束を、しっかりと心に留めておられますか？ 地上世界よりもずっと素晴らしい御国に行けるという神様からの約束を、心の中で大切になさっていますか？

ホテルの利用客の中には、(一時的滞在なのに)自分が泊まる部屋の家具の位置などを自分の好みに合わせ変える人もいます。しかし、そのホテルの部屋はその人の本当の家ではありません。私たちも、この地上が私たちにとっての「真の家」ではないことを心に留めましょう。そして、(神様だけがご存知の)神様がお定めになった時が来たときには、いつでも「真の家」に行く準備が出来ているようにしておきたいものです。

讃美歌 488

祈り 神様、この地上での生活は一時的なものであり、私たちが真に属しているところは御国であることを思い起こさせて下さい。この一時的な地上での生活だけに没頭してしまうのではなく、永遠の住まいとなる御国を覚えつつ、この地上生涯を全うすることが出来ますよう、お導き下さい。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ケリー・ウイリアムス
アラバマ州フローレンス

8月2日 (金)

主イエスのみことば

聖書朗読 ヨハネ 7：14～24

しかし、祭りもすでに中ごろになったとき、イエスは宮に上って教え始められた。
ヨハネ 7：14

ユダヤ教の宗教指導者たちの企み等により、イエス様のエルサレムにおける伝道は簡単ではありませんでした(ヨハネ7：1)。ですから、イエス様はガラリヤでの働きに時間を費やされました。しかしユダヤ人の祭りの時には、ガラリヤの人々も大勢エルサレムにやって来たので、イエス様のエルサレムでの伝道も比較的進めやすかったようです。祭りの際、エルサレムは大勢の人々でごったがえしており、イエス様に対して好意的な人々も多くいたからです。そのような状況で(イエス様を逮捕することにより生じる)騒動を、宗教指導者たちは避けようとしてしました(マルコ11：18、32、12：12)。

とは言え、イエス様がお教えになった内容は、必ずしもその全てが人々にとって聞き心地のよい内容ではありませんでした。主イエスが教えられたことは、当時の権力者たちの権力を恐れず、罪を行う者の罪をはっきりと指摘するものでした。主イエスの教えは、主イエスを大変危険な状態に置く可能性を秘めていました。しかしイエス様は、機会があればいつでも人々をお教えになりました。上掲のみことばに「イエスは宮に上って教え始められた」とある通りです。なぜ、イエス様は危険を冒してまで、人々をお教えになったのでしょうか。それは、イエス様の教えられた真理は、神ご自身のみことばであり、今日でもなお力を持ち続け、私たちの人生を変えるような力強い御言葉だからです。

讃美歌 501

祈り 天におられるお父様、御名を賛美します。いつも私たちを愛して下さい、ありがとうございます。また、ひとり子であるイエス様を与えて下さったことに感謝致します。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ビル・タイナー
テネシー州ヘンダーソンヴィル

8月3日(土)

ニコデモの人生

聖書朗読 ヨハネ 7:45~52

ニコデモは答えて言った。「どうして、そのようなことがありうるのでしょうか。」

ヨハネ 3:9

パイリサ人のニコデモは、当時のユダヤ社会の指導者層の一人でありましたから、ユダヤ社会では権力と影響力をもった人物でありました。こんにちなら、いわば国会議会のような立場の人です。ヨハネは、このニコデモという人物について(断片的ですが)記録を残しています。そして、ヨハネが記録したニコデモに、私たち自身も重ねて考えることが出来ると思います。

ニコデモがイエス様と最初に出会ったのは、夜でした。彼はある夜、人目につかないようにしてイエス様に会いに来たのです。ニコデモのような影響力を持つ人は、誰と会うか細心の注意が必要だったのです。もしかしたら、ニコデモは同僚たちから「あのイエスという人物が誰なのか、調べてくれ」と頼まれていたのかもしれない。いずれにしても、ニコデモはイエス様と会い、会話をしました。その会話は、ニコデモにとっては少し難しい内容でしたが、イエス様との初めての会話は、ニコデモにとってとても印象深く、また考えさせられる経験となったと思います。

本日の聖書朗読箇所では、ニコデモはイエス様を弁護しようとしています。しかし、他の宗教指導者たちの(イエスを非難する)姿勢に押し流されている様子が窺われます。その後しばらくして、イエス様は十字架に架けられ、息を引き取られます。そしてニコデモは、イエス様の埋葬準備を手伝っています。

最初は人目につかないようにしてイエス様に会いに来たニコデモでしたが、ついにはイエス様の埋葬の手伝いもするようになったニコデモに、私たちの人生も重ねて考えることが出来るのではないのでしょうか。私たちも最初は御言葉を読んでも分からないことだらけです。しかし、徐々にイエス様の素晴らしさを知るようになり、イエス様による救い導かれるのです。

讚美歌 II編 167

祈り 神様、あなたと共に歩む私たちを強めて下さい。私たちの迷いをあなたにおゆだねし、あなたのご栄光のために歩むことが出来るよう、お導きください。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ケン・デイビッドソン ジュニア
アリゾナ州ペイソン

8月4日(日)

罪の力からの解放

聖書朗読 ヨハネ 8:31~41

キリストは、自由を得させるために、私たちを解放してくださいました。ですから、あなたがたは、しっかり立って、またと奴隷のくびきを負わせられないようにしなさい。
ガラテヤ 5:1

私はテキサス州で幼少期を過ごしました。特に夏の時期、外で遊ぶことが大好きでした。裸足で芝生の上で遊んだり、スプリンクラーの水をジャンプし、避けたりするのが楽しかったです。残念なことに、好きではない点もありました。それは、芝生に隠れている小さな虫に噛まれることが度々あり、その時は、痒くて痒くて気が狂いそうになるほどでした。

私は、(自分の頭の中に)「自分が嫌いなこと・苦手なことの一覧表」があるのですが、それに含まれているのは、「不愉快な出来事に遭遇すること」ですとか「気難しい人を相手にすること」、そして「害虫による何らかの被害を受けること」です。もしこの「一覧表」にあることが私に起こったならば、私は(芝生で虫にかまれて痒い時のように)とても落ち着かない気持ちになってしまいます。

かつてエジプトの王は、イスラエル人達を立ち去らせようとしなかったため、災いが生じ、大変苦しみました。カエルやブヨ、あぶ、そしてイナゴが王を苦しめました(出エジプト記8章~10章)。時に、私達も日々の生活で罪を犯し、その罪のために問題が生じたり、とても落ち着かない気持ちになったりすることはありませんか。

イエス様は、「罪を行なっている者はみな、罪の奴隷です」と言われました(ヨハネ8:34)。人々は、神を信じていると言いながら、同時に罪を行っていました。イエス様は、真理は人々を苦しみから解放し、自由へと導くと教えて下さいました。真理(すなわちイエス様)を救い主として信じ受け入れるならば、私たちは罪の力から解放され、真の望みと安らぎが与えられるのです。

讚美歌 295

祈り 親愛なるお父様、罪深き私たちをお赦し下さい。罪から自由になれるように私たちを助けて下さい。日々の生活でも私たちをお助けて下さり、ありがとうございます。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

カタ・ウインザー
カリフォルニア州サンディエゴ